

■上杉鷹山(治憲) 米沢藩主。範を示して藩政改革を推進、〈寛政の改革〉のモデル、地方政府を代表する名君に。

うえずぎようざん(はるのり)

徳川吉宗没・1751=

小藩の高鍋藩江戸藩邸で、藩主秋月種美の次男に生まれる。母は黒田甲斐守長貞女。幼名は松三郎。実母が早くに亡くなったことから、祖母で、5代米沢藩主上杉綱憲の娘瑞耀院の手元に引取られ養育される。米沢藩は、国持大名最小の15万石ながら、会津120万石時代の家臣団6,000人を抱えたままで、この頃には、借財が20万両に累積、20余年ほど前には、農民を語って藩政を批判する「笹野観音通夜物語」も出ている。

薩摩藩工事・1753= 2歳

この年、寛永寺普請による出費があり、最上川も氾濫、人口も減少を続け、

自然真菅道・1755= 4歳

この前後の、宝暦大飢饉などが藩財政を直撃。名家の誇りを重んずるゆえ、豪華な生活を改められなかった藩主重定は、藩領を返上して領民救済は公儀に委ねようと本気で考えたほどであった。

大式政治批判1759= 8歳

重定には男子が無く、賢い孫と思っていた瑞耀院から、幸姫の婿養子にと勧められ、

大岡忠光没・1760= 9歳

米沢藩主上杉重定の養嗣子となって、桜田の米沢藩邸に移り、直松に改名する。江戸家老の竹俣当綱から、藩の苦境を訴えられ、

・・・・・・1763=12歳：尾張出身の折衷学者細井平洲に師事、

忠臣蔵大当り1766=15歳

元服に際し、第10代将軍徳川家治の偏諱を授かり、治憲と改名、家督を継いで、9代藩主となると、

明和事件・・・1767=16歳

\*鎮守の宮白子神社に'藩民のために働く'という誓詞を奉納、竹俣当綱を中心に、藩政改革開始。

・・・・・・1769=18歳

幸姫と結婚。江戸城西丸の普請手伝いを命じられ、多額の出費が生じたため、初のお国入りをすると、江戸善政を町奉行にして、改革を本格化、大檢約令を出して、自らの藩主費用も八分の一にし、代官世襲制も排して実力本位とし、全国に先駆けて、収支明細書や予算書を作成、

田沼意次老中1772=21歳

目黒行人坂大火で、江戸藩邸が焼失すると、藩士らに、木材の伐採から運搬まで働かせ、米沢でも、開墾や堤防など、土木事業に藩士を駆り出し、自ら、現場に向いて労をねぎらうなどしたが、

大原騒動・・・1773=22歳

これでは藩が壊れてしまうのではと怖れた、"侍組"と称される名門出の重臣らが、改革中止を直訴、藩主の拉致までちらかせる事態となる(七家騒動)。目付や奉行に実態を確かめ、藩士を集めて確認したところ、全員に支持されるや、切腹、お家断絶という重い処分を下して解決。予算書を藩士全員に公開。ついであるが、この前後、藩主の改革を危惧する重臣の反発が諸藩で起こり、幕府が彼らの意見を聞くことが多かったため、徳島藩、松江藩では、藩主が隠居に追い込まれ、岡崎藩では軟禁されている。

雨月物語刊・1776=25歳

前藩主重定の、自らが養子になって後に誕生した四男を世子とする(のち治広と改名)。細井平洲を招き、閉鎖されていた藩校を{興讓館}として再興させ、藩士・農民など身分を問わず学問を学ばせる。

ツツ船蝦夷来 1778=27歳

農村統制では副代官、廻村横目、郷村出役を設け、国産奨励として桑、コウゾ、漆の各100万本植立策を実施し、越後から縮織業を導入。

天明大飢饉始1782=31歳

幸姫が病没。

蘭学階梯・・・1783=32歳

天明の大飢饉になると、江戸善政の献策で餓死者を出さずに済むも、改革は挫折し、執政竹俣当綱・小姓頭江戸善政らは失脚、

蝦夷初調査・1785=34歳

\*自らも有名な訓戒書「伝国の辞」を治広に与え、家督を譲って隠退するが、後見役となり、その後も政務を指導。治広に贈った著名な和歌「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の 為さぬなりけり」には、日本人一般に欠ける鷹山の思想が集約され、まさに、実行したといえよう。

田沼意次失脚1786=35歳

前年来、凶作・大火が続くなか、

寛政改革始・1787=36歳

幕府から治世を賞され、初めは重定隠居所の借楽館に、後に米沢城三の丸に建設された餐霞館が完成するとそちらに移る。

混浴禁止・・・1791=40歳

藩財政が危機的状況に陥ると、家臣らの意見に従い、江戸善政を再登用して中老職とし、その献策によって第2期の寛政改革を進め、とくに上書箱の設置、代官制度の改革、財政再建16ヵ年計画、また広範な国産奨励策などの実施があげられる。中でも、縮織が、ち米沢織というブランド商品になり、養蚕業、織物業が発展、財政および農村復興の基盤となる。

松平定信引退1793=42歳

ワヅガ 正月・1794=43歳

十代藩主治広の養子になっていた嫡男顕孝が、天然痘で夭逝し、衝撃を受け、「御国民療事」と、領民を敬語で遇し、治療を無償で行う施策まで行った。

写楽・・・・1795=44歳

「蒙養訓」、

アロト航来・1796=45歳

古事記伝・・・1798=47歳

前藩主重定が死去。

伊能測量始・1800=49歳

「朝夕論」、

一九膝栗毛始1802=51歳

\*総髪とし、鷹山と号する。米沢藩領北部にあった白鷹山からとったと言われる。

青洲麻醉手術1805=54歳

以後、再び、治広・斉定の政治の後見しつつ、悠々自適し、

黒住教・・・1814=63歳

水野忠成老中1818=67歳

負債がほとんど償還された上、軍用金の蓄えができたのを見届けて、

英船浦賀来航1822=71歳

疲労と老衰のために、睡眠中、没した。翌年には、借金16万両を完済し、5千両の蓄えまで有するに至って、破綻寸前の藩財政は立ち直る。アメリカ大統領ケネディが、尊敬する日本人として上杉鷹山を挙げたことで話題にもなった。